

磐田市

桶ヶ谷沼 ビジターセンター だより

第199号 2020年12月号



開館時間: 午前9時～午後5時 (月曜日 休館)

住所: 〒438-0016 磐田市岩井 315 番地

電話: 0538-39-3022 FAX: 0538-39-3023



*** わた 渡り鳥がやってきました ***



マガモの群れ

冬が近づくとともに、今年も北の国からたくさんの渡り鳥が桶ヶ谷沼や鶴ヶ池にやってきました。日に日にその数が増えてきています。その多くはマガモでこの時期のオスは黄色のくちばし、緑色の頭、首には白い輪、灰白色と黒褐色の胴体と鮮やかな色をしています。一方、メスはくちばしが橙色と黒で、ほぼ全身が茶色っぽい色をしています。越冬中にはつがいになり、オスとメスが一緒になって泳いでいるのが見られます。食べ物は水草の

葉や茎、植物の種子で、貝を食べることもあります。泳ぐのは上手ですが水中にもぐることは苦手なので、水中の餌をとるときには首を水の中に突っ込みます。低い声で「グアー」とか「クアッ」と鳴きます。なんとアヒルはマガモを家禽(飼育している鳥のこと)として改良したものです。春になり暖かくなると北の国に戻っていきます。



オス

メス

今年もオオハクチョウがやってきました・・・

11月26日午前10時30分頃、2羽のオオハクチョウが鶴ヶ池で仲よく泳いでいるのを見つけました。鶴ヶ池にオオハクチョウが飛来したのは59年ぶり2回目のことでした。昨年は、桶ヶ谷沼に初めてオオハクチョウ(2羽)が飛来し11月23日から11月30日まで姿を確認することができました。

鶴ヶ池で近年毎年確認できているコハクチョウは、昨年12月18日に2羽飛来し、1月5日まで確認することができました。今年も来てくれるといいですね。



オオハクチョウ



コハクチョウ

クチバシの黄色の面積が大きいのがオオハクチョウ、小さいのがコハクチョウ

渡り鳥とは・・・？ (出典：ウィキペディア)

Q1 どうやって行く先にたどり着くの???

渡り鳥とは、食料の確保や気温などの環境の変化、繁殖などそれぞれの事情に応じて定期的に長い距離を移動する鳥のことを言います。

移動の際の進路は、次の3段階で決定されているのでは**ないか**と考えられています。

第1段階は、太陽や星の配置を目印に南・北おおよその方向を決めてある程度飛ぶ。

第2段階は、地球の磁場とかつて飛んだ地形の記憶をたよりにしてある程度飛ぶ。

第3段階は、地形や環境の特徴などの記憶をたよりにして目で確認して目的地に着く。

しかし、詳しくは解明されていません。

Q2 渡り鳥の種類は??? (日本を基準に考えて)

夏鳥・・・主に、繁殖のために日本より南方から渡ってきて、夏を日本で過ごし、繁殖期が終わると再び越冬のために南に渡っていく鳥。

ツバメ、アマサギ、オオルリ、キビタキ、クロツグミ など

冬鳥・・・主に、越冬のために日本より北方から渡ってきて、冬を日本で過ごし、冬が終わると再び繁殖のために北に渡っていく鳥。

ツグミ、マガモ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マナヅル など

旅鳥・・・日本より北で繁殖し日本より南で越冬するため、渡りの途中に一時的に日本に寄る鳥。春と秋2回見られます。

シギ、チドリ など

参考 キョクアジサシという北極圏と南極周辺を行き来する鳥もいます。北半球の夏に北極で子育てをし、北半球の冬に南極まで移動する。飛行距離、往復なんと32000km以上も!!すごい鳥ですね。

自然との触れ合いを

やちょうかんさつかい 野鳥観察会

どなたでも参加でき、参加費は無料です。申し込みは直接電話やFAXでビジターセンターへ

- * **日程** 1月17日(日) 9:30~11:30
 - * **場所** 桶ヶ谷沼ビジターセンター
 - * **対象** 一般(小学生は保護者同伴で。ただし、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として同伴者は1人のみとしてください。また未就学児の参加はご遠慮ください)
 - * **内容** 桶ヶ谷沼にいる野鳥の説明を受けたあと、桶ヶ谷沼に出かけマガモなどの水鳥や野鳥の観察をします。
 - * **服装・持ち物** マスク着用、野外観察ができる服装、水筒、手袋など防寒具、タオル、双眼鏡(ある人) その他必要なもの
 - * **備考** 新型コロナウイルスの感染状況によっては中止になることがあります。
- ☆ 参加人数は15人までとし、先着順とさせていただきます。
- ◎ 次のセンター行事は1月31日(日)13:30~15:30「冬の昆虫観察会」を予定しています。参加人数は先着20人までとします。